

# 寅年に因んで

宮司 前原利雄

明けまして

おめでとうございます

皇紀二六八二年

令和四年壬寅

輝かしき新年を寿ぎ奉り、箭弓稲荷神社のご社頭より、氏子崇敬者ご尊家ご同様の弥栄とご健勝を祈念申し上げます。

さて、今年は十二支の寅年にあたります。そこで、トラに因んだ話題を四つ紹介致します。

▼長野県の信濃国一之宮諏訪大社で御柱祭り(おんばしらまつり、正式には壬寅歳式年造管御柱大祭といえます)が行われます。諏訪大社は、全国に一万余ある諏訪神社の総本社で、数えて七年に一度、寅と申の年に宝殿の造り替え、そして御柱を選び、山から曳き、上社・下社・春宮・秋宮それぞれ社殿の四隅に建て一連の神事で、およそ千二百年以上も続く日本三大奇祭のひとつに数えられています。勇壮なお祭りです。既に日程も決まり、四月二日から六月十六日まで繰り広げられます。新型コロナの影響が心配されますが、事故なく般販裡に斎行されますよう祈っております。

▼埼玉県秩父市秩父神社には、社殿正面に左甚五郎作と伝えられる

彫刻「子育ての虎」が施されています。親虎(豹の模様)が三匹の子虎と戯れ、子虎を見守る姿は、江戸時代の狩野派の特徴と云われております。天正二十年(一五九二年)社殿造営に際し寄進した徳川家康公は、寅年寅刻の生まれでトラを殊の外信心し、家康公の威厳とご祭神を守護する神使として彫らせたものと思われまふ。

▼山口県の教育者の方が提唱した「子育て(教育)四訓」には、子育ての心得として次のように諭されております。

- 乳児はしっかりと肌を離すな
- 幼児は肌を離せ 手を離すな
- 少年は手を離せ 目を離すな
- 青年は目を離せ 心を離すな

当社には毎年、安産祈願・命名・初宮・七五三・十三参りなど多くの方々にお参り頂いております。ご家族お揃いで喜びに満ち溢れ、感謝と健やかなる成長をお祈りする姿は何物にも代えがたく、まさに子に勝る宝はございません。

銀も金も玉もなにせむに勝れる宝子にしかめやも(山上憶良)

▼ある動物園の園長さんのトラの子の話です。トラのお母さんが子供を産むと、当然子トラはお乳を飲みます。子トラでも爪を持って

牙も生えてます。爪でお乳を握り、牙を使って噛みます。そうすると当然お母さんは痛くて子供の首筋を噛んで投げ飛ばす。子供はなぜ投げ飛ばされているか判らず、何度もやっていると爪や牙を使ってはいけない、舌で飲まなければいけないということを理解する。これが躰であります。我々人間の子供も同じであります。

「つのつく間は親が見る」、一つ、二つ、三つ、四つ、五つ、六つ、七つ、八つ、九つ。いわゆる、三つ子の魂百まで、つのつく間に、どのような環境の中で育ったかが、その子の生涯に大きな影響を与えらるということがあります。お父さんやお母さん或いはお爺さんお婆さんが理屈ではなく、愛情をこめてはつきり身体で教えなければならぬのではありませんか。将来の日本を支えてくれる宝、貴重な子供たちの為、家庭の在り方を今一度真剣に考え、健全なる家庭を築いていきましょう。

天地の神に祈る朝のうた  
海のほとくに波たたぬ世と

(昭和天皇御製)

神社の例祭にて奉奏されます巫女舞の歌詞です。

一昨年より続く新型コロナウィルス感染症の不安が解消され、穏やかな日常の生活を取り戻し、ご家族皆様が明るく楽しくお過ごしになられますよう役職員一同心からお祈り申し上げます。

謹賀新年

箭弓稲荷神社

宮司

前原利雄

責任役員総代

嶋本正雄

同

江野邦夫

同

野口茂

総代顧問 一同

職員 一同